

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501761		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家		
所在地	札幌市白石区北郷1条3丁目1-54 (電話) 011-875-2522		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年10月16日	評価確定日	平成20年10月24日

【情報提供票より】 (20年 9月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年	11月	1日			
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27	人			
職員数	24 人	常勤	24人,	非常勤	人,	常勤換算	21人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1 ~3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35000~42000 円	その他の経費(月額)	光熱水費20000~25000円 暖房費(11~3月) 10000円	
敷 金	有(35000~42000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,240 円			

(4) 利用者の概要 (9月 5日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護 1	7	要介護 2	5		
要介護 3	6	要介護 4	8		
要介護 5	1	要支援 2			
年齢	平均 82.0 歳	最低	66 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人誠医会よつばクリニック さくら歯科クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成14年に開設され、法人内には有料老人ホーム、通所介護、居宅支援事業所、訪問介護事業所を併設する。建物は鉄筋コンクリート製の、かつての社員寮を改装したもので、堅固な構造に広いスペースを確保しており、広いリビングのほかに家族用宿泊室など居室以外の部屋がいくつかあって利便性が高い。町内会や小中学校など地域との交流は頻繁で、親しい関係を築いている。幹部職員のキャリアが長く人心掌握にも優れ、堅実な運営が行われている。運営推進会議、家族との連絡、職員教育など基本的なことは着実に実行し、介護計画はセンター方式を活用したアセスメントのもとに、遜色なく作成、運用が行われている。職員の信頼関係も厚く、明るく和やかな介護が行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	理念は職員によく定着しており、地域との交流も盛んになってきている。運営推進会議の参加の幅も広がってきている。「あさひの家」新聞はかなり読みやすくなった。面会簿はプライバシーを考慮して個別方式に改善した。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員全員に趣旨を説明し、意見を求めて計画作成担当者が集約し、最終的に管理者がまとめあげて作成した。取り組みのテーマは職員、家族、運営推進会議にも公開して、改善の努力をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はほぼ2ヶ月に1回開催されており、その時々の方針、感染症対策、災害対策、行政実地指導の内容、自己評価、外部評価の内容、その他各種の懸案事項、成年後見制度の説明などを行って討議し、参加者の意見を求めている。ここでの意見がホームの運営に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を置いているほか、家族が来訪した際には忌憚のない意見、要望を極力引き出すように努めている。ホームの行事の機会に家族会を開いて意見を出してもらっている。出された意見、要望などはミーティングなどで話し合い、業務の改善に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、敬老会や夏祭りなどの行事に参加し、手伝いをする一方、ホームの行事に地域の人々を招いて交流している。また、近隣の小・中学生が職場体験活動の一環として来訪し、お年寄りのお世話に参加する機会もある。さらに今後は町内会での啓発活動に一役買うなど、地域で必要とされる活動や役割を担ってゆくことを目指している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームが地域密着型の類型に加えられたのを機に、利用者一人ひとりの人生が輝くようにとの願いをこめて、家庭的な雰囲気、人権尊重、家族・地域社会とのつながりなどを柱とする新たな運営理念を作成した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、パンフレット、「あさひの家新聞」、スタッフルーム等に掲げられ、周知が図られている。ミーティングの折などには適宜理念が確認され、職員の意識にもよく浸透している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、敬老会や夏祭りなどの行事に参加し、手伝いをする一方、ホームの行事に地域の人々を招いて交流している。また、近隣の小・中学生が職場体験活動の一環として来訪し、お年寄りのお世話に参加する機会もある。さらに今後は町内会での啓発活動に一役買うなど、地域で必要とされる活動や役割を担ってゆくことを目指している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員に趣旨を説明し、意見を求めて計画作成担当者が集約し、最終的に管理者がまとめあげて作成した。自己評価や外部評価で取り上げられた取り組みのテーマは職員、家族、運営推進会議にも公開して、改善の努力をしている。	○	自己評価の作成に当たっては、一般職員の参加の度合いをさらに深め、改善の趣旨や目標が共有されるよう、期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はほぼ2ヶ月に1回開催されており、その時々々の行事、感染症対策、災害対策、行政実地指導の内容、自己評価、外部評価の内容、その他各種の懸案事項、成年後見制度の説明などを行って討議し、参加者の意見を求めている。ここでの意見がホームの運営に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との関わりは、担当者との業務上の連絡のほか、区で行う認知症予防教室に協力している。また、管理者連絡会で交流し、区への働きかけも行っている。	○	さらに踏み込んで、介護担当だけでなく広く行政各部門の情報を得て、行政サービスを有効に施設のために活用することを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪した折には口頭で詳しく利用者の様子を伝えるほか、季刊発行の「あさひの家新聞」、ホームページ、家族ノートで利用者の生活ぶりや行事の様子などをきめ細かく家族に知らせている。金銭使途確認は毎月行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いているほか、家族が来訪した際には忌憚のない意見、要望を極力引き出すように努めている。ホームの行事の機会に家族会を開いて意見を出してもらっている。出された意見、要望などはミーティングなどで話し合い、業務の改善に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族への信頼関係を築くため、馴染みの職員による対応を重要視し、ユニット間の異動は必要最小限に留め、他事業所との異動は行っていない。職員交代の際は幹部職員が新人を十分に指導してケアの継続を図り、利用者のダメージ軽減に努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内で形態別介護技術、医学知識、障害者の心理などに関する定例の勉強会を実施している。外部研修は職員に機会を紹介して極力参加するよう、奨励している。	○	外部研修については、職員によって参加状況に違いがあり、一般職員に参加の少ない人が見られるので、受講回数の底上げを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区のレベルでのグループホーム管理者連絡会で交流している。医療機関が実施する事例検討会でも同業者との交流がある。この中で研修や親睦を行って情報交換している。	○	現在のところ管理者ないし幹部レベルの交流に止まっているので、プライベートなつながりも活かしながら一般職員レベルでも相互訪問などの交流の機会を持てるよう、期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始に当たっては家族と打ち合わせのあと、本人に見学してもらう。そしてできるだけ他の施設もいくつか見てから決めるように薦める。見学は何度か繰り返されることもある。実際に入所になると1日ぐらいで馴染んでもらえる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	床のモップがけ、雑巾縫い、洗濯物干しなど多くの家事を職員、利用者協同で行い、利用者は喜んで参加している。屋内飾りの作品も思い思いに参加して作業する。お年寄りの昔話、生活の知恵などは、職員の知識や心を豊かにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に一人ひとりの思いや意向の把握に努めているが、利用者の約半数は言葉による意思疎通が困難で、コミュニケーションに苦心している。声かけの工夫やまなごしなどで意図を汲み取るように、経験を重ね、また職員同士情報交換しながら努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時は管理者と計画作成者で聞き取りを行い、介護計画を作成している。入居後は、日々のかかわりの中で、利用者や家族の要望を聞き、担当職員を中心に全職員で話し合いを行い介護計画を作成している。作成した介護計画は、家族と、可能な限り利用者にも説明し、署名をして貰っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しを行っているが、要介護度変更や入退院後の状態変化がある時は随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。定期的な介護計画の見直しも、介護計画の遂行状態、効果などを評価して新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、利用者の負担になる受診、入院の回避、早期退院の支援を行い、点滴などの医療処置を受けながら事業所での生活の継続など、利用者や家族の要望に対して臨機応変に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により、かかりつけ医の継続受診が可能であり、状況により通院介助も行っている。提携医療機関の医師による往診と、看護師の訪問による健康管理が行われている。複数の医療機関と関係を密に結んで適切な医療が受けられるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、「重度化した場合の対応に関わる指針」を作成して意思確認を行い、事業所の対応について説明を行っている。入居後は、状況の変化に伴い、利用者や家族、関係者と話し合いを繰り返し常に方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回の外部評価を踏まえ、面会簿は個別の用紙に変更し、プライバシーの確保に努めている。勉強会において、抑制、虐待チェック表などを利用して話し合いを行い、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応にならないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、口腔ケア、お茶会など基本的な一日の流れはあるが、利用者の体調や状況により、一人ひとりのペースや気持ちを尊重した対応を行っている。一人ひとりの希望や思いを知る事を大切にして、それぞれの利用者に応じて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、漬け物、おにぎりを作るなど食事の準備をしたり、片付けなど利用者の状況に応じて職員と一緒にしている。職員は、利用者と一緒に楽しく食事をしている。時には、職員が弁当を持って来る事もあり、会話が弾み利用者の刺激にもなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能で、時間帯も利用者の希望を確認して対応している。異性介助は、利用者の意向を確認して行っている。週2回の入浴を基本に、個別入浴を行っている。スムーズに入浴出来るように、予めメモで入浴時間を知らせるなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ペットが可能になっているため、猫や犬と一緒に楽しく生活をしている利用者もいる。モップがけ、洗濯物たたみ、食器拭きなど利用者の状況に合わせて手伝ったり、カラオケ、百人一首、トランプなど職員と楽しみながら張り合いのある生活している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、近くのこぶし公園に行ったり、近隣の庭を見せて貰ったりして散歩を楽しんでいる。歩行困難な場合も、車や車いすを利用してドライブや買い物に出かけ、冬季も、大型ショッピングセンターに出かけて、食事などを楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関近くのスタッフルームからも玄関の様子が分かる様になっていて、日中は鍵をかけることなく自由な暮らしを支援している。利用者が外出しそうな時は、さり気なく声かけをして一緒に外出して安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成し、年2回消防署の指導のもと避難訓練を行うと共に、町内会の避難訓練にも利用者と共に参加している。夜間を想定した避難訓練を行い、運営推進会議では、地域の協力も呼びかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分、食事の摂取量を記録して利用者一人ひとりの状態を把握し、摂取量の少ない利用者に対しては、病院の指導のもと補助食品の摂取を行っている。献立は、専属の調理師が立てているが、定期的に栄養士に指導を受けて栄養のバランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と広い居間があり、ソファなど思い思いの場所で利用者はゆったり過ごしている。居間には、観葉植物や季節の花、手作りのカレンダーなどが飾られて季節感を取り入れている。利用者職員と一緒に作成した切り絵などが廊下などにも飾られ、家庭的な雰囲気の中で過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベットやタンス、仏壇など使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれていて、居心地良く過ごせるように工夫している。利用者と一緒に、職員も居室の飾り付けなどを行い、一人ひとり個性的な居室でゆったりと過ごしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。